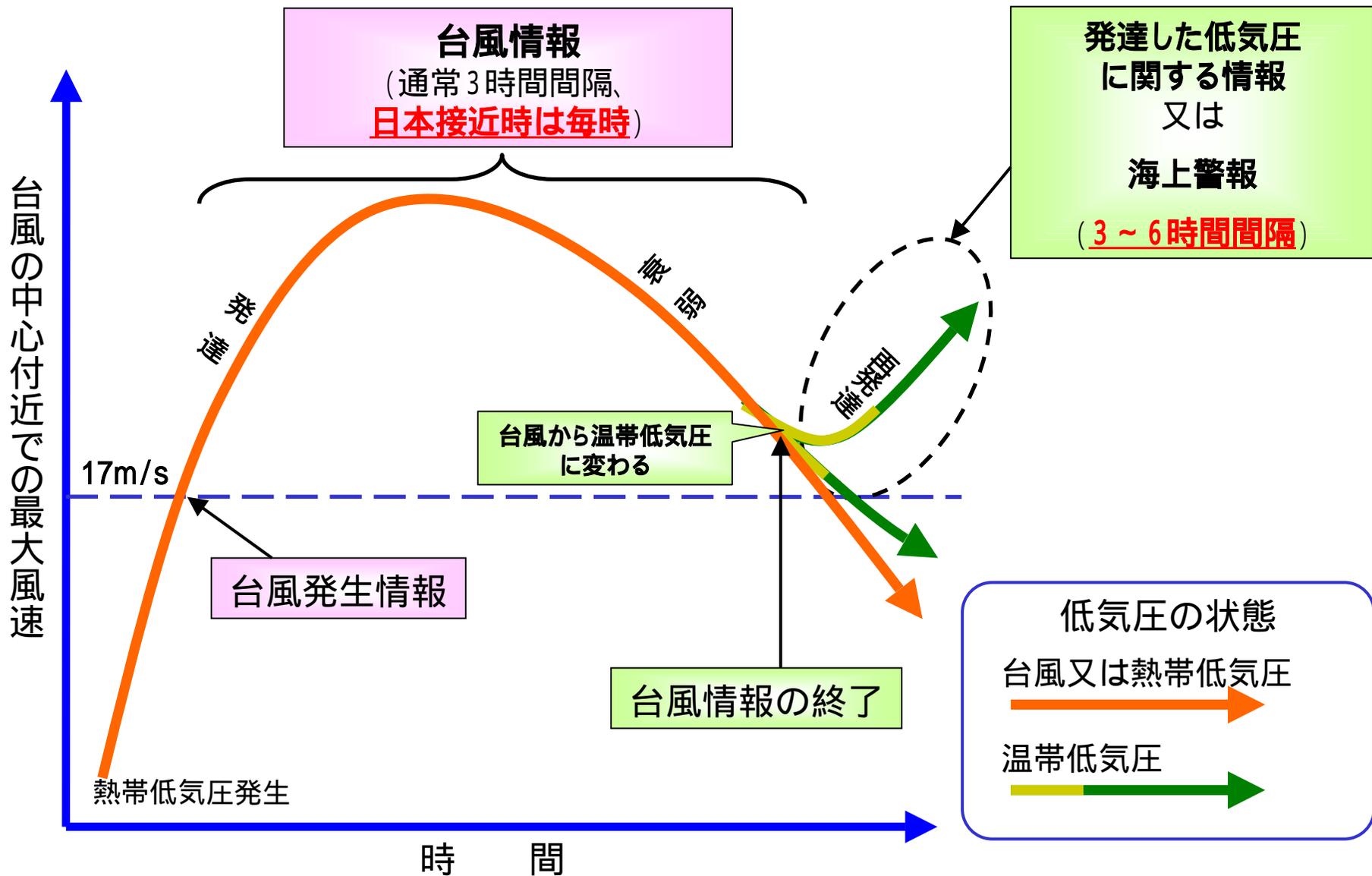


**台風から変わった温帯低気圧に関する
情報の発表方法(案) 説明資料**

平成18年2月2日

気象庁予報部

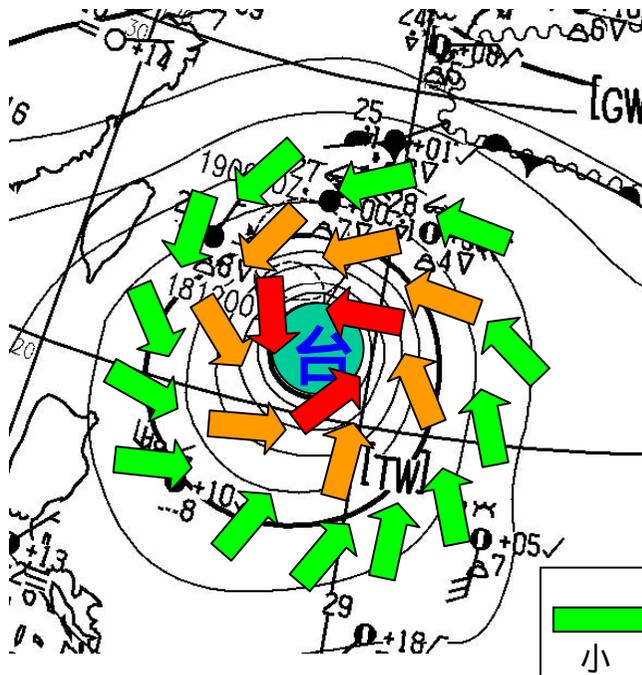
1 台風から温帯低気圧に変わるまでの情報発表の現状



2 台風と温帯低気圧の特徴の違い

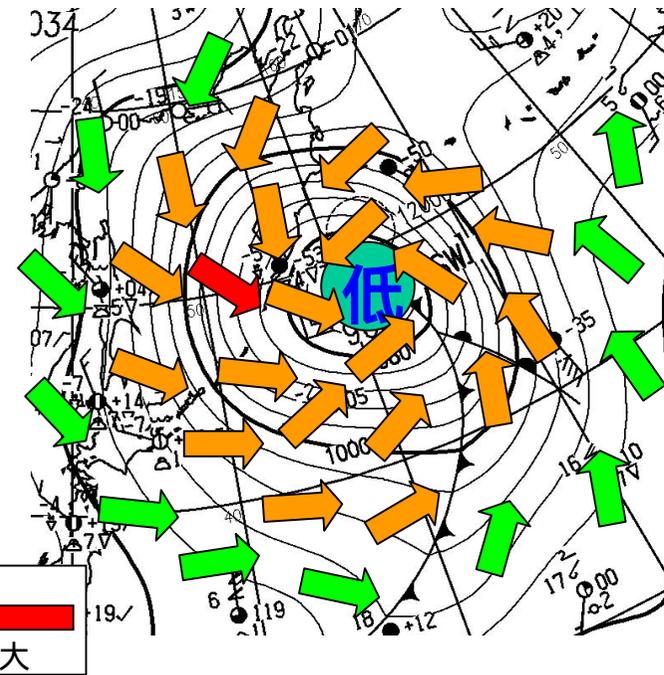
台風(熱帯低気圧)

中心付近ほど風が強い



温帯低気圧(発達した場合)

風の強い領域が広く、
中心から離れた場所でも風が強い

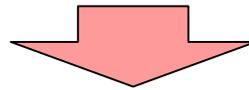


台風から温带低気圧へは徐々に遷移していく

3 課題と対応案

課題

台風から温帯低気圧になると、気象庁は「台風情報」の発表を終了し、報道機関や防災機関へ提供する情報量が減少する。
台風に匹敵する暴風・強風が広い範囲で発生するような状況でも、防災体制が緩められる傾向がある。



対応案

温帯低気圧の特徴を持つようになったとしても、防災上重要な場合は、台風情報としての発表を継続する。

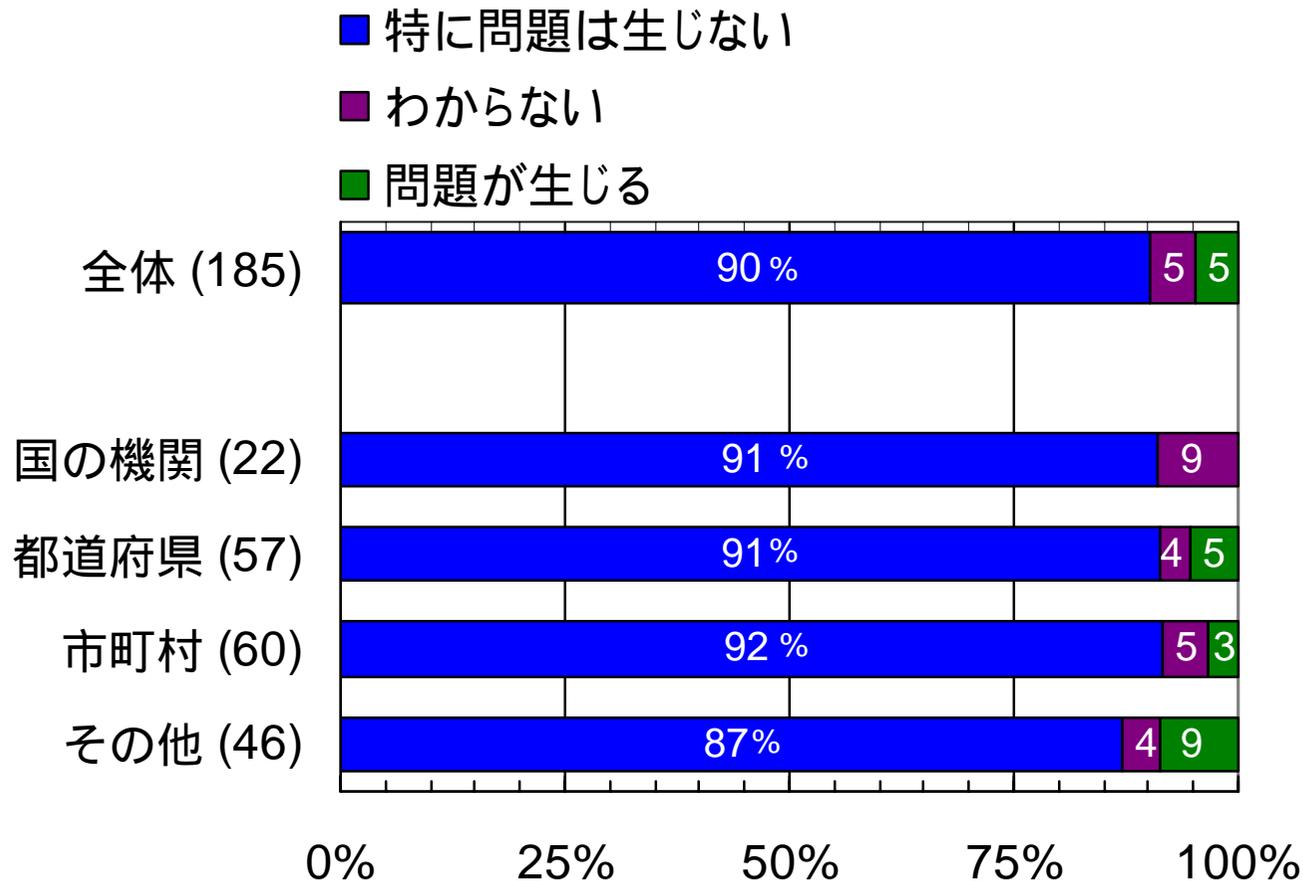
温帯低気圧の特徴が理解されやすいよう、情報文中に“広い地域で暴風に警戒”などの表現を用いた警戒文を含める。

毎時の情報提供を継続する。

4 - (1) 聞き取り調査結果

都道府県、市町村等合計185機関を対象に聞き取り調査を実施

【質問】台風が温帯低気圧に変わった後も、台風情報として情報提供を継続することは、一般住民や関係機関の防災対応に問題が生じる可能性がありますか。



4 - (2) 聞取り調査結果

台風から変わった温帯低気圧の情報に関する意見

「特に問題は生じない」という回答が大勢

(対応案)

- ・台風から温帯低気圧に変わっても、暴風を伴って災害を及ぼすような場合には、台風として情報を発表する。
- ・風の強い領域が広く、中心から離れた場所でも暴風が吹くことを明確に伝える。